



置かれた場所で咲く

校長 板見 剛
副校長 森 敏樹（作成）

長与の子の心を見つめる教育週間（6月24日～7月1日）

長崎では、7月1日を含む1週間を「長崎っ子の心を見つめる教育週間」として、命の尊さや人権尊重について考える取り組みが行われています。今年で21年目を迎えます。

6月24日（月）朝の校長講話（要約）

7月1日を迎えるにあたり、みなさんにお願ひがあります。「自分の思いを守るために人の存在を踏みこじめることは絶対にあってはならない」ことを心にとめておいてください。

自分の思いやプライドを守るために、また自分の欲求を優先するために他を傷つけてしまうことが、長与中学校でも起こっています。表面化したことは、先生たちも指導を行っていますが、なかなかゼロにはなりません。

「他を傷つける」行為を行っている人や、「やってはならないことをやっている人」を周りで見かけたことはありませんか？学校にスマホを持ってきている人がいる、お菓子を持ってきている人がいるのを見かけた人はいませんか？人が悲しんでいるのに、さらにそれを悲しませる言動をとっているところを見たことはありませんか？

「中学生だからそれぐらい許されるさ」なんて思っていないですか？「他人がやっていることだから、自分には関係ない」と思っていないですか？

他人への無関心は、その内大きな事件、住みにくい世の中、居心地の悪い学校を創っていきます。他の人への関心を持ち、お互いに励まし合いながら自分を磨いていくのが集団生活です。そこで、この教育週間にきっかけに、皆さんに次の2つのことを考えてほしいと思います。

1. 自分の発言や行動、そして心に目を向けてほしい。

2. 他の人にも興味をもち、良いことは良いと、悪いことは悪いという発言や行動をとってほしい。

2番目は、同級生や先輩に対しては難しいこともあります。難しい時は、先生たちに相談してください。長与中学校で生活するすべての人が、自分の弱い部分を受け入れ、周りにいる人がそれをサポートし、安心して自分磨きができる生活を送ることができることを心から願っています。

2年生ふれあいペーロン

25日（火）は天候も心配されましたが、無事実施することができました。前日及び当日に、お手伝いいただいた保護者の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げます。

参加した生徒たちは、皆で協力し合い、レースの勝利に向け力を合わせる姿が様々な場面で見られました。今回の貴重な経験の感想を、ぜひ自分の言葉で家族の皆さんに伝えてほしいものです。

ペーロンは、すべての櫂（かい）がそろわなければ、前に進みません。

全員の声と動作、そして気持ちのすべてがそろうことが求められます。

2年生にとって、修学旅行をはじめ大きな行事が待っています。「声と動作（行動）、そして気持ち」をひとつにし、学級の更なる団結を目指していくこと期待しています。



【道徳公開授業・学級懇談会（テーマ：『生命尊重』）】

28日（金）5時間目、道徳の公開授業が行われました。天気の良い中、全学年で200名を超える保護者の方々にお越しいただきました。ありがとうございました。

その後の学級懇談会では、「命の大切さ」について、保護者・教員がいっしょになって意見を述べ合いました。

このような機会は大変貴重で、とても有意義な時間となりました。

ぜひ、ご家庭でも、お子さんといっしょに『命の大切さ』について語り合う時間を作っていただければと思います。



～命を大切にしようとする善行～

28日（金）登校時間を過ぎようかという時間。住宅地を流れる近くの小さな川に、数名の生徒がいるとの情報を受け駆けつけました。

そこで目にしたのは、川に落ちたイノシシの子（ウリ坊）を救おうとする5名の生徒の姿でした。うち2人が川に入り、びしょ濡れになりながら、地域の方が貸してくれたポリバケツで保護しました。懸命に、「命を救おう」とするその行動に心温まりました。

3年生弁論大会が、27日（木）、長与町文化ホールで行われました。

本校の代表生徒5名が発表した原稿の内容（要約）を、発表順に紹介します。

□『言葉』 杉田さん

「言葉」は人を傷つける武器にも、繋がる架け橋にもなる。「ありがとう」「大好き」「幸せ」「がんばったね」。私たちの生きるこの世界には、こんなにも心温まる言葉が数えきれないほどある。心温まる言葉は、自分自身も相手も幸せにする。照れくささを乗り越え、感謝の気持ちを伝えよう。「言葉」は誰かを傷つけ、追い込む危ない道具でもある。使い方を誤れば身近な人や大切な家族、友人に大きな傷を与えてしまう。誰もが幸せになれる「言葉」を積極的に使い、素晴らしい時を過ごそう。



□『「音」をつくる』 樽見さん

プレッシャーと葛藤を乗り越え、仲間と奏でる音楽。部長として、メンバーをまとめ、感動の音楽づくりを目指す。「日常の行動が、自分の音につながる」という先生の言葉を受け、行動から変革を目指す。個々の音が重なり合い、一つの音楽になる過程こそが、吹奏楽の魅力。日常生活における行動が、音に表れる。相手を思いやり、演奏を愛する「相思奏愛」をスローガンに掲げる。音づくりを通して、自分自身と仲間と向き合う。中学校最後の夏、私たちが作り上げてきた長中サウンドでコンクールという大舞台に挑む。

□『自分らしく』 石崎さん

「いい人」の仮面を外し、ありのままの自分で生きる。周りの期待に応えるために、「いい人」の仮面をかぶり、自分らしさを失ってしまう。「控え目」「素直」な人は「自分を出せない」と誤解されがちだが、真の「謙虚さ」は「自己否定」ではない。「自分らしさ」とは「ありのままの自分を受け入れる」こと。自分の意見を主張しつつ相手を尊重する態度が大切。少しずついいので、自分らしさを出して周囲を関わっていく。個性を尊重し、自分らしく生きられる社会を作っていく。

□『「挑戦」とは』 上田さん

小学生時代の消極的な経験から、「挑戦」は自分から動くことだと考える。中学生になって積極的に活動するも、「現状維持」に陥り、真の「挑戦」から遠ざかる。安定志向が強い日本人特有の「現状維持思考は、「挑戦」を阻害する。改めて「挑戦」を意識し、学級委員長に挑戦。現在は、生活委員長として、毎日の挨拶運動を通して、遅刻者ゼロを目指す。小さな挑戦でも、現状維持を打破し、成長できる。諦めずに挑戦を続けることが大切。「おはようございます。」 今日でも挑戦を続ける。

□『ありがとう、ごめんなさい』 小浦さん

いかりや長介さんの言葉から、「ありがとう」「ごめんなさい」の大切さを知る。お礼を言うことが恥ずかしくて、つい強がったりしていないだろうか。中学生になり、反抗的な態度をとることが増えた。兄にひどい言葉を言ってしまい、後悔する。勇気を出して謝罪したところ、兄は優しく許してくれた。口で言うだけでなく、行動で感謝や謝罪の気持ちを伝えよう。来年、新たな出会いと別れを迎える中学3年生。感謝の気持ちを胸に、家族や友人、そしてこれから出会う人たちと関わっていききたい。

長中生のみなさんへ

確かな成長を見守る大人がいてくれる「今、この時に」・・・】

「確かな成長」というキーワードは、この学校だよりに度々、出てきます。皆さんの成長を望む思いは、保護者・地域の方々、先生たちそれぞれにあります。だからこそ、できなかったことができた時の喜び、たとえ失敗してもそこまであきらめなかった粘り強さ、そのどれもが私たちにとっての喜びです。逆に、ルールを守ることができなかつたり、相手を傷つける行為があつたりすると、とても残念で、悲しい気持ちになります。

大人になると、その厳しくも温もりのある周りの大人たちの、皆さんへの見守りはなくなります。一人の大人として自分で考え、正しく判断し行動することが求められてきます。「18歳の成人」を一つの節目とするならば、その見守りはあと3～5年間といったところでしょう。確かな成長を見守る大人（保護者・地域の方々・先生たち）がいる「今、この時に」、長中生のみなさんに心掛けてほしいこと。それは、「していいことと、悪いこと（善悪）の判断」をしっかりとし、よく考えて行動や言動に移すということです。校長先生の講話にあったように、自分の行動や言動は、「相手を傷つけることにならないか」、さらにこれに加え、「相手や家族に迷惑をかけることにならないか」「ルール（法や学校の決まり）を破ることにならないか」。まずは、大人になるまでの「今、この時に」その力を身に付けていくことを心から願っています。もし、判断に悩む時は、迷わず近くの大人（保護者・地域の皆さん、先生など）に聞いてみることもよいと思います。インターネットの掲示板などにはない、あなたのことを想った温もりのある助言をくれることでしょう。

R6 長崎県「ココロねっこ運動強調月間」 期間 7月1日（月）～31日（水）

「ココロねっこ運動」は、家庭・地域社会・学校・行政が一体となった青少年の健全育成と環境浄化を目的としています。



個人情報が含まれていますので、取扱いには十分な配慮をお願いします。